

# 田倉川と暮らしの会 創刊号

1998年9月1日発行

## ● 赤谷の石積堰堤を探す

八月二十三日「会」行事として、赤谷川の堰堤調査を行った。案内は、代表の伊藤喜右工門さん、面谷啓一さん、そして宮崎一志さんの三人と、福井から砂防工学に取り組んでいる田中和利さんと深井亮太さん、魚類専門の森照代さんと田中保士の七人が参加した。



(写真1：谷を案内しながら説明する会員、写真左二人目から会員の伊藤、面谷、宮崎さん。)

当会の行事として、赤谷川の沢を上り堰堤調査を調べることとなった。当日は蒸し暑く、沢は雑木や草で生い茂り、とても近づくことができない最も条件のわるい時期を選んでしまった。この谷には明治二十八年の豪雨によって、大平（おおびら）の山抜け（土石流）がおり、赤谷を埋め尽くしてしまった。その後むらの人々が総出で、二年かかって九箇所の堰堤を築造した。（大塚由次さんの話）下流の八、九号は、土堰堤で、後は石積み堰堤である。今から約百年前の歴史的文化遺産である。私たちは必死になって沢を探し、二号、三号そして七号の石積み堰堤を確認した。面谷さんは、四、五、号堰堤を林道から沢の流れの勢いの音でその場所を推定した。六号堰堤は、伊藤さんが一人で沢に入り、発見してきた。何れも大きな岩石でしっかりと組まれ、未だにその役目を果たしている。その上自然石の堰の流れや、勢いよく落ちる滝の素晴らしい景観に感動し、宝を発見した少年のようにしばらく声も出せず眺めていた。自然と先人達に感謝しながら。この報告書は近日編集して発行する予定である。

## ● 環境教育セミナーを支援 リトリートたくら

武生ロータリークラブでは、九月二十六、二十七の両日、リトリートたくらにおいて、「田倉川インタープリターズキャンプ」を開催する。当会では、田倉川や赤谷川の解説や案内をしたり、住民と都市住民の交流に参加する。田倉川は、大自然の懐を感じさせながら、流域の歴史と風俗の文化的な香りを持つ魅力を秘めている。このセミナー誘致をきっかけに、この流域を環境教育（自然学校）の場として、位置づけていきたい。川や里山、沢歩きや山登りなど自然学校としての自然条件はたつぷりと備わっている。

## ● 子ども自然体験村整備 文部省方針発表

自然にふれあう機会の少ない現代っ子たちにじっくりと自然体験をさせようち、文部省は夏休みなどに親元を離れて長期滞在できる「子ども長期自然体験村」を、来年度から整備する方針を決めた。安全で自然の多い河川を「子どもの水辺」として、建設省や環境庁とともに五千ヶ所登録、川遊びをしなが

ら環境保護の大切さをまんでもらう考えた。フランスで多くの子どもが利用している「バカンスセンター」の日本版。農家やコテージに泊まって共同生活をし、炭焼きや農作業、沢登り、キャンプなど、自然を生かした体験をしてもらう。（福井新聞八月三十一日）

## ● 会員を募ります

宅良地域の人々は、田倉川と共に、流域の歴史や風俗と深い結びつきを持って生きてきた。この会は、田倉川の魅力を発掘し、川づくり、流域づくりを考え体験し、地域住民と都市住民が豊かな自然のなかで交流、共生していくことを目指したい。会員は、地域住民や都市住民、企業や、行政の方が自由に参加できるよう努めていきたい。今年の七月二十四日に誕生したばかりです。現在の会員は、面谷啓一、権八実、大塚与士雄、辻武雄、宮一志、大和建設、代表の伊藤喜右衛門、事務局の田中保土（両親古木出身）